

都道府県が設定している要防除水準(果樹)

(平成28年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
果樹(リンゴ、モモ、ナシ)	ハダニ類	5月中旬～9月上旬	ルーペによる見取り調査、1園地当たり新梢の中位葉30葉	葉当たり雌成虫1頭	要防除水準の密度に達した時期		福島県
果樹類	ハダニ類	生育期	1樹あたり新梢葉20枚、徒長枝葉10枚を見取り調査	成幼虫数3頭/葉以上	即時		山形県
果樹	ミカンハダニ	夏～秋期	見取り調査 1樹あたり40葉×3樹	雌成虫数早期多発樹で3頭/葉(平均で0.5～1頭/葉)	即時		愛媛県
果樹	黒点病	春～夏期	アメダスデータによる降水量調査 前回防除後からの日数	200～250mmの降雨後又は前回防除後30日以内。罹病性品種の場合、累積降水量180mmの降雨後、または前回防除後25日以内。	即時		愛媛県
かんきつ	ハダニ	随時	見取り調査	雌成虫の寄生葉率30%以上または1葉あたり1頭以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
かんきつ	ハダニ類	全期間	生息密度、見取り(10葉×5樹)	寄生葉率30%又は寄生虫数0.5～1.0頭/葉	即時		宮崎県
かんきつ	ミカンハダニ	—	見取り調査	寄生葉率30%以上、または1葉あたりの雌成虫数0.5頭～1頭以上	即時		佐賀県
かんきつ	ミカンハダニ	—	100葉(50葉×2樹)の見取り調査	雌成虫数0.5～1頭/葉	即時		熊本県
かんきつ	ミカンハダニ	—	100葉(50葉×2樹)の見取り調査	雌成虫寄生葉率30～40%	即時		熊本県
カンキツ	ミカンハダニ	—	見取り調査	雌成虫0.5～1.0頭/葉(寄生葉率30～40%程度)	即時		鹿児島県
かんきつ	ミカンハダニ	3月～10月	見取り調査、1圃場あたり50葉調査	1.0頭/葉	即時		三重県
中・晩生かんきつ類(施設栽培)	ミカンハダニ	6月	任意に100葉を選び寄生葉を調査し、寄生葉率を求める。	寄生葉率20%以上	6月中下旬(果実肥大期)		千葉県
中・晩生かんきつ類(施設栽培)	ミカンハダニ	10月	任意に100葉を選び寄生葉を調査し、寄生葉率を求める。	寄生葉率20%以上	10月中旬		千葉県
かんきつ	ミカンハダニ	春～秋	見取り調査	寄生葉率30～40%、1葉あたり雌成虫数が0.5～1頭以上	即時		山口県

都道府県が設定している要防除水準(果樹)

(平成28年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
かんきつ	ミカンハダニ	生育期	見取り調査、予察圃場50葉/樹/2樹、巡回調査50葉/圃場	寄生葉率30~40%	即時		長崎県
かんきつ	チャノキイロアザミウマ	6~7月	見取り調査、予察圃場50果/樹/2樹、巡回調査25果/圃場	果実における寄生密度 0.1頭/果	即時		長崎県
かんきつ	チャノキイロアザミウマ	6~7月	果実洗浄	100果あたり10頭以上	即時		熊本県
かんきつ	チャノキイロアザミウマ	6~9月	6~9月	寄生果率15%以上または10果あたり1頭以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
かんきつ	チャノキイロアザミウマ	8~9月	見取り調査、予察圃場50果/樹/2樹、巡回調査25果/圃場	果実における寄生密度 0.3~0.5頭/果	即時		長崎県
かんきつ	チャノキイロアザミウマ	8~9月	果実洗浄	100果あたり15頭以上	即時		熊本県
中・晩生かんきつ類(施設栽培)	カイガラムシ	6月	任意に100葉を選び寄生葉を調査し、寄生葉率を求める。	寄生葉率30%以上	6月中下旬(果実肥大期)		千葉県
かんきつ	ヤノネカイガラムシ	3月	見取り調査	越冬母虫が100葉あたり2頭以上	6月または8月	(要防除密度の目安)	兵庫県
かんきつ	ヤノネカイガラムシ	4月	100葉の見取り調査	100葉あたり雌成虫数2~15頭未満	6月		熊本県
かんきつ	ヤノネカイガラムシ	4月	100葉の見取り調査	100葉あたり雌成虫数15頭未満	6月と8月		熊本県
かんきつ	ヤノネカイガラムシ	4月	100葉の見取り調査	100葉あたり雌成虫数2頭未満	8月		熊本県
かんきつ	黒点病	—	降雨量の確認(積算値を利用)	(1)薬剤散布後の積算降雨量が200~250mmに達した時点(マシン油を加用した場合300~400mm)(2)積算降雨量が(1)に達しない場合、散布後1ヶ月	即時		佐賀県
かんきつ	黒点病	—	前回散布からの(1)累積降水量(2)日数	前回散布からの累積降水量200~250mm又は25~30日後	即時		熊本県
カンキツ	黒点病	発生期	薬剤散布後の降水量	散布後250mm以上降雨があつたら再防除	即時		神奈川県
かんきつ	黒点病	5月~9月	降水量	前回防除後の降水量が200~250mmに達した時(もしくは防除後1ヶ月を経過した時)	即時		山口県

都道府県が設定している要防除水準(果樹)

(平成28年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
かんきつ	黒点病	5月中旬～8月	降水量調査	累積降水量250～300mm以上 又は前回散布からの経過日数25～30日	即時		長崎県
かんきつ類	黒点病	5月中旬～8月下旬	累積降水量:アメダスポイント毎で 半月別降水量から前回防除後の 累積降水量を把握する。	前回農薬散布以降1か月が経過した 場合、あるいは、累積降水量が 250mmを超えた場合	即時		広島県
カンキツ	黒点病	5月中旬～9月上旬	降水量調査(簡易雨量計など)	薬剤散布後累積降雨量200～300mm、 または前回散布から経過日数25～30日	即時		鹿児島県
かんきつ	黒点病	落弁期～9月	降水量、アメダス	前回防除後の降水量累積250～300mm	即時		宮崎県
みかん	ミカンハダニ	3月～11月	雌成虫の寄生葉率	夏期:寄生葉率30%、秋期:寄生葉率20%	3月～10月		静岡県
みかん	チャノキイロアザミウマ	5月～10月	寄生果率	許容被害度を10とした場合、6月～7月の寄生果率が8%、8～9月は10%	6月～9月		静岡県
みかん	黒点病	5月～10月	降雨量	有機銅:散布間隔は20～25日または累積降雨量230mm・有機銅以外の薬剤:散布間隔は25～30日または累積降雨量250mm～300mm	5月～9月		静岡県
いちじく	アザミウマ類	6月上旬	黄色粘着トラップ(20cm×20cm)による誘殺	旬あたり300頭以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
いちじく	アザミウマ類	6月中旬	黄色粘着トラップ(20cm×20cm)による誘殺	旬あたり500頭以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
なし	ハダニ類	—	見取り調査	寄生葉率10%以上又は1葉あたりの雌成虫数0.5頭以上	即時		佐賀県
なし	ハダニ類	—	100～250葉(20～50葉×5樹)の見取り調査	雌成虫数1～2頭	即時		熊本県
なし	ハダニ類	—	100～250葉(20～50葉×5樹)の見取り調査	寄生葉率20%以上	即時		熊本県
なし	ハダニ	5～9月	見取り調査	寄生葉率20%以上または1葉あたり1頭以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県

都道府県が設定している要防除水準(果樹)

(平成28年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
ナシ	ハダニ類	6月～8月	見取り調査(ほ場全体を観察する)	2頭/1葉	即時		群馬県
なし	黒星病	5月上旬～6月中旬	降雨量の確認(積算値を利用)	(1)薬剤散布後の積算降雨量が100～200mmに達した時点(ただし、使用する薬剤により、防除基準である降雨量の目安が変わる) (2)積算降雨量が(1)に達しない場合散布14日後	5月上旬～6月中旬		佐賀県
ぶどう	チャノキイロアザミウマ	5月下旬	黄色粘着トラップ(20cm×20cm)による誘殺	旬あたり20頭以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
ぶどう	チャノキイロアザミウマ	6月上旬	黄色粘着トラップ(20cm×20cm)による誘殺	旬あたり40頭以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
りんご	ハダニ類	随時	見取り調査	成幼虫数が3頭/葉に達した樹が全体の10%以上	即時		秋田県
りんご	ハダニ類	随時	—	1葉あたり3頭以上	要防除密度に達した時		宮城県
りんご	ハダニ類	6～8月	ルーペによる見取り調査、1園地あたり10樹、1樹あたり10枚の葉を調査。調査する葉は、リンゴハダニでは目通りの高さの新梢10本の中位葉を各1枚。ナミハダニでは、樹冠内部の主幹や主枝から直接発出した新梢10本の中の中位葉を各1枚。	2個体/葉 又は寄生葉率50%以上	できるだけ早めに殺ダニ剤を散布		青森県
リンゴ	ハダニ類	6月～8月	見取り調査(ほ場全体を観察する)	2頭/1葉	即時		群馬県
りんご	ハダニ類	6月下旬～9月上旬	普通樹で主幹・主枝徒長枝の下位葉、わい性樹で主幹近くの新梢下位葉を調査	寄生葉率30%	即時		岩手県
りんご	ナミハダニ	7～9月	見取り調査	寄生葉率30%以上または1葉あたり1頭以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県